

21世紀型スキルを育成するための授業づくり

— 小学校高学年国語科説明文の言語活動を中心に —

学籍番号 (159967)

氏 名 (流田賢一)

主指導教員 (富田福代)

1. 研究課題の設定

本課題研究のテーマは、「21世紀型スキルを育成するための授業づくり —小学校高学年国語科説明文の言語活動を中心に—」である。日本は、PISA ショックを経て国語の教育について考え方を変化させてきた。世界中での教育改革の流れにおいて、新しい能力、新しいスキルの育成が求められている。

世界的な教育改革における中心的テーマの一つに 21 世紀型スキルの育成がある。これは、10 のスキルと 4 つのカテゴリーとして大別されて位置づけられている。日本でも、その流れに沿って国立教育政策研究所が、21 世紀型能力を提唱している。中核となる思考力の中に、論理的・批判的思考力が含まれている。

本校の児童に必要な力を整理したときに、児童相互の関わりの中で新たなものを生み出す力や考えを再構築する力の育成が必要であると結論づいた。本校の児童につけたい力、足りない力、小学校の発達段階にあったスキルを話し合ったところ、①思考の方法、②仕事の方法、③仕事のツールが適切であると結論づいた。

2. 研究の対象と方法

・対象 研究対象校 (勤務校) 〇 市立 H 小学校

高学年国語科の説明文の授業

・方法 国語の授業で批判的思考力が育成されているかを質的調査する。児童・教員、保護者へのインタビューとアンケート調査。言語活動で表現された児童の学びを評価の対象とする。

3. 研究の内容

1 年次は、研究対象校の研究と連携して 21 世紀型スキルの育成に向けて研究をした。21 世紀型スキルの 7 つのスキルに焦点を当てて実践研究をしていた。実践した反省として、7 つのスキルを実践し検証することは難しいかったため 1 つに焦点化して実践することにした。2 年次になり、21 世紀型スキルの中から批判的思考力に焦点をあてて研究を進めた。5 つの思考タイプを明らかに認め、検証は思考タイプに分けて行った。

「生き物は円柱形」筆者の主張に対して納得度をもち、自分の考えをプレゼンテーションで筆者に伝える言語活動をする。筆者の考えに

「天気を予想する」平成 23 年度の教科書と平成 27 年度の教科書 (改訂前後の教科書) を読み比べて、筆者の意図を読み取り、クリティカルに本文を読み取る。

4. 研究の成果と課題

成果は、批判的思考力育成をめざした授業づくりを5つの思考タイプで整理し、実践と検証をすることにより、批判的思考力を育成するための授業づくりに必要な要素を明らかにすることを目的として研究してきた。授業づくりでは、教科書教材で研究を進めてきたが、そのままの教材で提示するのでは、今までの教育と何も変わることがない。そのため、児童の学習に向かう姿勢を高めることにもつながり、主体的な学びになる教材提示をすることが、児童の意欲向上につながるということがわかった。

本研究は、校内研究を共同して研究を進めている。そのため、研究対象校での構内研究授業を21世紀型スキル育成に向けた児童の思考タイプを分類・整理した。結果、比較、分類・整理、類推、具体と抽象、因果関係という5つの思考タイプに整理することができた。この思考タイプは、思考の方法のカテゴリーに分類される批判的思考力を育成する授業づくりに役立つものであった。

教科の中での21世紀型スキルの育成には、基礎的な学習の定着は不可欠であるため、教科の本質を学習するために、指導計画の最初に一斉学習による全員に共通の学びを展開した。この学びが、その後のペア、グループの学習に役立った。だが、一斉学習をどの程度入れるのかは今後の検討課題となった。国語科の学習の流れと、先行研究の批判的思考力育成の流れをもとに本研究で、育成のモデル図を作成することができた。

以上のことより、国語の学習の中で、批判的思考力を育てる方法として、説明文を正しく読み取った後に文章を読み手と書き手と両方の立場から読み直すことが有効であることがわかった。つまり、言語活動の中で筆者を意識した学びを展開することは、思考し自分の考えをもつことができ、批判的思考力を育成することにつながると考える。

批判的思考力を育成するために次のプロセスが有効であると成果を得た。まずは、教材提示の工夫が授業づくりの前提となる。次に、情報を正しく受け取る力（確認読み）が必要である。本研究では、共通の学びとして指導計画に位置付けた。その後、思考場面である自分の考えをもつことと、表現する場面の批判的思考力を育成するプロセスになる。

課題として今回は10ある21世紀型スキルの育成の中で、思考の方法である批判的思考力に焦点をあてて研究を進めてきた。批判的思考力の育成には、小学校の中で高学年児童に適していると判断し、焦点化して研究を進めてきた。だが、21世紀型スキルは誰にでも必要な力であるため、低学年や中学年では批判的思考力のどのような力を育成できるかを探っていくことが必要である。また、国語科の中でも、説明文に焦点をあて研究を進めてきたが、物語文でも比較して読み取り、分類・整理しながら思考する場面が多くある。物語文において研究することで、国語科として大切にしたい授業づくりを考えることにつながると考える。

教科・領域の中では、国語科に焦点をあてて検証を進めてきた。批判的思考力は、国語科以外でも算数科や社会科などでも育成可能である。他教科に広げて批判的思考力の育成を探り、教科横断的な研究になれば視野の広い研究成果が得られるであろう。

情報化社会となりインターネットで検索すれば、多くの情報を得ることができる。ここで、批判的思考力を育成することで情報の取捨選択は、効果的にできると考える。だが、あふれている情報のどこにアクセスするのか、どのように情報を入手するのかという情報リテラシーは現代社会を生き抜く児童にとっては必要な力となっていっくだろう。このように、批判的思考力以外にも、小学校段階で育成をめざしたい21世紀型スキルはある。研究対象校ではなしあった7つのスキルの中から、児童に育成するスキルを探り実践検証していくことの必要性を感じている。